

## 令和6年能登半島地震 被災地支援

### 非常災害現地対策本部へ派遣

1月1日に発生した能登半島地震の被災地支援のため、1月29日から2月6日まで、石川県庁に設置された非常災害現地対策本部へ港湾建設課の櫻井課長を派遣しました。

活動内容としては、被災地の応急救助、復旧・復興に係る情報収集・共有及び関係機関との各種調整を行いました。



出発式(R6.1.29)



対策本部での活動状況

### TEC-FORCE（緊急災害対策派遣隊）の派遣

TEC-FORCEの高度技術指導班（港湾）として、早期の復旧に向けた構造設計の検討や復旧工事の発注に向けた積算作業のため、港湾計画課の上野課員を北陸地方整備局へ派遣しました。

派遣期間は2月1日から3月1日までの約1ヶ月間、北陸地方整備局本局で活動しています。3月4日からは港湾建設課の船橋専門官が新潟港湾空港技術調査事務所で任務にあたる予定です。



出発式(R6.1.31)



北陸地方整備局での活動状況

(港湾空港部 空港・防災課)

## えりも町沿岸域の天然コンブ漁場における Jブルークレジット認証への取組について

えりも町沿岸域では、漁業者が天然コンブの生産量を増加させるため雑海藻駆除を実施しています。増加するコンブのCO<sub>2</sub>吸収量を定量化しクレジット化することにより、気候変動対策と水産振興の同時推進が期待できます。

令和6年1月17日に、「えりも沿岸域におけるブルーカーボン生態系によるCO<sub>2</sub>吸収量推計検討会（第3回・最終）」を開催しました。

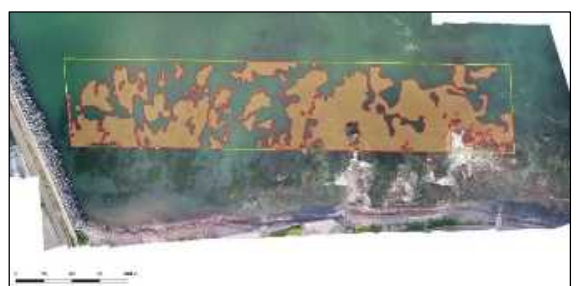
検討会では、えりも町より、潜水調査による海藻現存量の測定、ドローン空撮調査による藻場面積の測定を行い、CO<sub>2</sub>吸収量として70.6t-CO<sub>2</sub>/年と算出されたこと、また、えりも町、えりも漁業協同組合、えりも岬の緑を守る会の3者により、Jブルークレジットの認証申請を行ったところ、調査の不確実性を踏まえ、約86%である60.4t-CO<sub>2</sub>が前年12月末に認証されたことの報告がありました。

また、ドローンの空撮画像から目視で藻場面積を特定するには、労力と経験が必要となることから、北海道大学大学院 情報科学研究院の小川貴弘教授より、ドローン画像からAI画像解析を行い効率的に藻場面積の判別する手法の開発状況についての報告がありました。

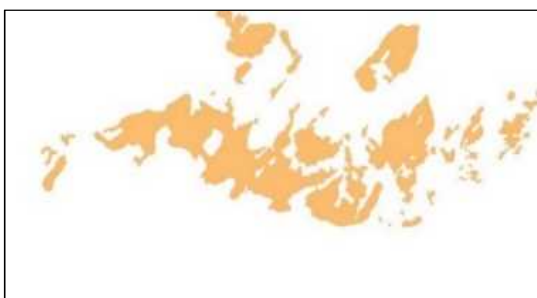
現在、えりも町では、ブルーカーボンに関して、町職員による授業の開催や子ども議会での質疑が行われるなど関心が広がっています。このように、地球規模の環境問題の教材としても効果的であり、加えて、このような取組はJブルークレジットの価値を向上させる効果も見込まれます。



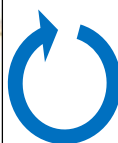
CO<sub>2</sub>吸収量把握のための潜水調査



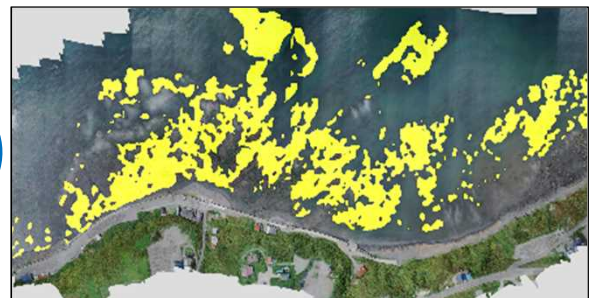
ドローンによる藻場の空中撮影と  
目視による藻場の特定



ドローン画像から目視による藻場の特定  
(正解藻場領域)



AI  
学習  
↓  
改善



AIによる推定結果  
(港湾空港部 港湾計画課)

## 第12回北海道みなとオアシス活性化協議会 を開催しました

令和5年12月12日(火)、TKP札幌駅  
カンファレンスセンターにおいて、  
北海道開発局・(一社)寒地港湾空港技術  
研究センター共催により、北海道各地  
より10箇所のみなとオアシス運営協  
議会の方々の出席をはじめ、関係者36名が参加し、協議会を開催しました。



### みなとオアシスピンス

北海道内の「みなとオアシス」で販売しています

今年度の協議会では、Sea級グルメのご当地化やふるさと納税の返礼品化への取組、海とみなとの魅力を伝える方策としたSNSを活用した情報発信の取組、みなとオアシスの認知度アップの方策として、みなとオアシスピンスを販売した効果について事務局より報告し、来年度以降も継続してみなとオアシスの活性化へ繋げるため参加者で意見交換を行いました。

最後にNPO法人北海道みなとの文化振興機構のホームページ

(<https://minatobunka-npo.info/>) が今年度にリニューアルされたことを受け、みなとオアシスのPRへの活用についても意見交換を行いました。

(港湾空港部 港湾計画課)

令和5年 港湾管理者の投稿記事

港湾管理者の皆様におかれましては、昨年も「こうわん通信」に多くの記事を投稿していただきまして、誠にありがとうございました。

「こうわん通信」は港湾管理者の活動や地元行事などをアピールできるツールですので、是非ご活用ください。今後も記事投稿をお待ちしております！！

「みなと」や地域のにぎわい

令和5年6月	枝幸港	「コロナ禍前の、にぎわいを。」～第56回 枝幸かにまつり 開催します！
令和5年6月	留萌港	5月5日は「かずの子の日」みなとオアシスるもいPR事業を実施
令和5年8月	稚内港	第60回稚内みなと南極まつり
令和5年9月	奥尻港	奥尻島「なべつる祭り」4年ぶりに開催

**「コロナ禍前の、にぎわいを。」**  
～第56回 枝幸かにまつり 開催します！～

新型コロナウイルス感染症の影響から、やむなく中止していた枝幸町最大のイベント「かにまつり」を4年ぶりに開催します。



↑漁船パレード



↑毛がに 早食い競争

今年のテーマは「コロナ禍前の、にぎわいを。」とし、7月1日（土：前夜祭）2日（日：本祭）の日程で行われ、地元漁師による漁船パレードのほか、毛がにの早食い競争、毛がにが当たる抽選会、YOSAKOIソーラン大賞受賞歴をもつ「夢想連えさし」による演舞などなど、ほかにも見どころが満載です。ぜひお越しください！



夢想連えさし

【お問い合わせ先】  
枝幸町観光課  
0163-62-4242



枝幸町観光協会HP


枝幸港（令和5年2月、6月）  
↑ 令和5年6月号掲載

**5月5日は「かずの子の日」**  
みなとオアシスるもいPR事業を実施



「KAZUMOちゃん」  
(留萌市公認キャラクター)

留萌市では、5月5日を「かずの子の日」と定め、留萌の特産物である「かずの子」を知ってもらうことを目的に「かずの子のマチるもいフェスタ」を開催しており、たくさんの市民に会場いただいております。



「かずの子のマチるもいフェスタ」の様子

「みなとオアシスるもい運営協議会」では、イベントの開催に併せ、令和5年5月5日（金・祝）に、「るしんふれ愛パーク」にて「みなとオアシスるもい」PR事業を実施いたしました。

PR事業としてみなとオアシスの代表施設である「るしんふれ愛パーク」管理棟1階で「みなとオアシスるもい」のリーフレット、ポケットティッシュの配布及びパネル、のぼり旗の展示を行いました。



「遊びにきてMO～」



みなとオアシスるもいPRブース



みなとオアシスるもい  
(るしんふれ愛パーク) 全景

今後も留萌の「みなと」を核としたまちづくりを促進するため、継続してPR事業を実施してまいります。留萌へお越しの際は、「みなとオアシスるもい」に是非お立ち寄りください。（留萌市地域振興部経済港湾課）

留萌港（令和5年6月、8月）  
↑ 令和5年6月号掲載

「みなと」の取組や協働

令和5年8月	留萌港	留萌港が綺麗になりました！！みなとオアシスるもい「Port Clean in 留萌」を実施！
令和5年9月	根室港	地震・津波への備え ～令和5年度 根室市総合防災訓練～
令和5年9月	森港	森港の清掃活動を実施しました！

「みなと」紹介やインフラ効果

令和5年2月	根室港	港湾施設が市民皆さまの命と暮らしをまもりました!!
令和5年6月	苫小牧港	苫小牧港は、開港60周年を迎えました。

港湾管理者の活動

令和5年2月	枝幸港	枝幸水産物輸出促進協議会が設立されました!
令和5年2月	鷺泊港	利尻富士町みなとづくりセミナーを開催
令和5年4月	石狩湾新港	石狩湾新港説明会を開催しました
令和5年12月	苫小牧港	第84回 九大港湾管理者港湾運営協議会 in 苫小牧

地震・津波への備え

～ 令和5年度 根室市総合防災訓練 ～

根室市は国内有数の地震多発地帯であり、これまでも幾多の地震に見舞われています。このような状況から、当市では大地震および津波を想定した総合防災訓練を毎年実施しており、今年度も8月29日に、根室港花咲港区を主会場に訓練を実施しました。

この訓練は根室市防災会議（会長：根室市長）が主催し、所属する19機関のほか、17の協力機関が参加しました。

本訓練は、発災時における関係機関との連携強化や迅速な初動体制の構築などを目的に、根室半島南東沖を震源とする巨大地震（マグニチュード8クラス）により大津波警報が発表された想定で実施しており、花咲港区の会場では、航空自衛隊・陸上自衛隊・北海道警察・建設協会が連携した、倒壊家屋からの救出救助訓練や、航空自衛隊と民間団体が連携した炊き出し訓練を行ったほか、市内各所にて道路の被災状況確認や情報伝達訓練等を実施しました。



倒壊家屋救出救助訓練

また、訓練参加機関による災害対応機械等の展示も行い、市民皆さまの防災に関する知識を深める取り組みも行う等、合計で41項目の訓練を実施しました。



衛星移動基地局車展示



根室市長 石垣 雅敏 挨拶



炊き出し訓練



人命救助システム2型・海水権用海水から飲料水を生産できるの展示

苫小牧港は、開港60周年を迎えました。



【本文】

苫小牧港は、本年4月25日をもって、開港60周年の大きな節目を迎えました。昭和38年4月、石炭の積み出し港として開港した本港は、幾多の困難を乗り越え、現在では、国際拠点港湾の指定を受け、北海道経済、日本経済を支える北日本最大の港湾として成長を遂げてまいりました。

この開港60周年を契機に、苫小牧港の新たな魅力を発信することを目的として、「苫小牧港開港60周年記念事業」を展開していきます。



【苫小牧港川柳 略して「苫柳（せんりゅう）」】  
苫小牧港開港60周年を記念し「苫柳（せんりゅう）」を募集します。

■テーマ  
苫柳は、苫小牧港が開港100周年（2063年）を迎える頃の時代を想像し、希望に満ち溢れ、さらなる進化を遂げた苫小牧港を思い描くような作品をご応募ください。

■募集期間  
令和5年4月25日（火）から6月30日（金）まで

■応募資格  
制限なし



つぶやき  
はじめました @portoftoma60th



【Twitterはじめました。（1年間限定）】

苫小牧港について、少しでも関心を持っていただく目的で、Twitterをはじめました。60周年にちなんで、60回程度の投稿を予定しています。よろしければ、フォローをお願いします。

（苫小牧港管理組合）

根室港（令和5年2月、9月）  
↑ 令和5年9月号掲載

苫小牧港（令和5年6月、12月）  
↑ 令和5年6月号掲載